

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名： 久御山町

プロジェクト名	「久御山の子」育成プロジェクト		実施期間	H28～H32	テーマ	教育プロジェクト	新規・継続の区分	継続（一部新規を含む）
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本町では、次世代を担う「久御山の子」を育成することを目指し、生涯学習の視点から策定された「くみやまタウンキャンパスプラン」に基づき、「久御山学園」を組織し、保幼小中一貫教育の中で、地域・保護者・学校・幼稚園・保育所が一体となって教育活動を推進している。現在、グローバル化や情報化の進展など、社会情勢等が急激に変化している中で、確かな学力、豊かな人間性・健やかな体などの「生きる力」の育成を基本とし、社会に柔軟に対応する能力や資質の育成に努める必要がある。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>保幼小中一貫教育により各保幼小中学校が緊密に連携し、「たての接続」を強めるとともに、家庭や地域と力を合わせて「よこの連携」を図ることで、「久御山の子」を育成する。また、旧山田家住宅が公開されたことで、より一層、町内の子どもたちが歴史や文化に触れ学ぶことで、豊かな感性を磨き、郷土を愛する心を育てる。</p>							
	総事業費（千円）	204,797	本年度事業費（千円）	49,004	交付金額（千円）	10,116		
プロジェクトを構成する事業の平成29年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
	幼保一体的運営事業	交付対象事業	3幼稚園に保育所5歳児の分園を設置し、幼保の一体的運営を行った。			嘱託教諭の配置：3名 臨時保育士等の配置：保育士21名、用務員3名 臨時調理員の配置：幼保補助3名		
	国際理解教育推進事業	交付対象事業	外国人の指導助手（ALT）の雇用及び久御山中学校と姉妹校のワーウィック・ステート・ハイスクールとの学校間交流を実施した。			外国青年招致事業：1名 外国語指導助手配置：3名 W. H. S交流事業（派遣：生徒15名）		
	久御山学園推進事業	交付対象事業	幼保一体化を含めた0歳から15歳までの一貫教育を展開した。また、久御山学園教育研究会を設置し、今後の展開方針や具体的な取り組み等の協議及び年次における進捗状況等の検証を行った。			久御山学園全体研修会：4回開催		
	教育相談事業	交付対象事業	生徒（児童）や保護者、教職員の悩みや心的ストレスの解消のため、ゆうホールと中学校に教育相談員等を配置し教育相談を行った。			教育相談室相談件数：延べ440件 中学校心の教室相談件数：延べ962件		
	学力向上対策事業	交付対象事業	少人数授業のための講師を配置し、生徒（児童）指導の充実と学力の向上を図った。			常勤講師の配置：小学校各校1名、中学校2名		
	学校図書館事業	交付対象事業	学校図書館を充実させるため、図書館司書を小・中学校に配置した。また、生徒（児童）への読み聞かせなど司書教諭の支援を行うとともに、学校図書館の蔵書整備を行った。			図書館司書の配置：2名 学校図書館の蔵書整備		

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名： 久御山町

市町村 実施事業	教材整備事業	交付対象事業	教材備品等の整備を行った。	理科備品及び教材備品の整備、楽器購入
	学び推進事業	交付対象事業	中学生の自主的な学習支援と基礎学力向上のため、アシスタントティーチャーを配置し、土曜塾プラスを行った。	土曜塾プラス実施回数：年8回
	平和学習推進事業	交付対象事業	町の平和都市宣言の理念を尊重し、平和教育を推進するため、小中学生への平和学習機会の提供等の充実などを行った。	小中学生広島派遣事業：29人 平和ポスターの募集：82点
	図書館運営事業	交付対象事業	多様なニーズや学習活動に対応するため、図書館の蔵書の充実や障害者の自宅への図書配送サービスを行った。	図書館の運営（図書展示・おたのしみ会等の実施） 図書館の蔵書整備及び障害者への図書配送サービス
	幼稚園施設整備事業	関連事業	幼稚園の施設整備を行った。	東角幼稚園園庭LED設置工事、東角小学校駐車場補修等工事
	保育所施設整備事業	関連事業	保育所の施設整備を行った。	（仮称）さやまこども園整備工事
	学校情報教育環境整備事業	関連事業	小・中学校の情報教育の推進や校務の迅速化のため、コンピュータ教室の機器借上や職員用PC配置、LAN配線の整備を行った。	コンピュータ教室及び教職員用の機器保守管理
	学校施設整備事業	関連事業	小・中学校の施設整備を行った。	佐山小学校体育館改修工事設計業務
	学校給食運営事業	関連事業	安全で安心な給食を提供するとともに、給食施設や設備の維持管理等を行った。	給食施設や設備の維持管理
	旧山田家住宅保存・活用事業	関連事業	江戸時代後期の建物である国登録有形文化財の旧山田家住宅長屋門・長塀の適正な管理と保存と活用に努めるとともに、平成29年4月から一般公開を開始した。	旧山田家住宅長屋門・長塀の維持管理
住民 協働 事業	家庭教育推進事業	交付対象事業	子育てを中心とした家庭と子どものあり方について学習する機会を提供するため、幼児、小中学生を持つ親を対象に、各種講座を開催した。	子育て支援学級講座：年2回開催・43名参加（延べ人数） 就学時子育て講座：年3回開催・230名参加（延べ人数） PTA家庭教育講座：年1回開催・20名参加
	子ども居場所づくり事業	交付対象事業	子どもたちが心豊かで健やかに育つ環境づくりのため、地域と学校等が連携し、土曜日等を利用して、地域の集会所等において「久御山まなび塾」を開催し、子どもたちに体験・学習活動ができる機会などを提供した。	まなび塾：3地域で開催・年26回 626名参加（延べ人数）
	歴史文化推進事業	交付対象事業	歴史や文化にふれ合える機会を提供するため、町の歴史や生活を学習する「ふるさと教室」等の実施や町郷土史会等の活動を支援した。	ジュニアふるさと教室：年3回開催・155名参加（延べ人数） ふるさと教室：年4回開催・98名参加（延べ人数）

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名： 久御山町

	学校運営補助事業	関連事業	各種団体への負担金と学校運営協議会や芝生化推進事業への補助を行った。	補助総額：2,257千円	
	社会教育団体補助事業	関連事業	青少年の健全育成に向けた活動を支援するため、社会教育団体(町青少年健全育成協議会)に対し補助を行った。	補助総額：1,200千円	
	中学校部活動支援事業	関連事業	中学校の部活動に社会人指導員に協力を依頼し、部活動の活性化を図った。	部活動支援員：6名	
成果指標 ①	成果指標の目標数値	土曜塾プラスの実施：延べ参加人数300人		成果指標の実績値 (平成30年3月31日時点)	参加人数：192人
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	当初10回開催の予定であったが、町行事と重なる等の理由で8回開催となった。また、1回あたりの参加人数についても、目標には達しなかった。(目標30人、実人数24人)	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	
成果指標 ②	成果指標の目標数値	まなび教室の実施：参加人数930名		成果指標の実績値 (平成30年3月31日時点)	参加人数：626名
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	土、日曜日に実施していることもあり、他の行事と重なり出席者が少ない日があった。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	
成果指標 ③	成果指標の目標数値	広島派遣の実施：参加者率100% (参加者数/定員)		成果指標の実績値 (平成30年3月31日時点)	参加者率：72.5%
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	夏休みが始まってすぐの月、火曜日という日程しか組めなかったことと児童の減少による。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	
成果指標 ④	成果指標の目標数値	学校図書標準達成率：92%		成果指標の実績値 (平成30年3月31日時点)	達成率：90.8%
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	昨年度と比較すると達成率は上がっているが、中でも、中学校の蔵書整備が87.4%とまだまだ整備が必要な状況である。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名： 久御山町

<p>本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果</p> <p>※未達成の場合も効果を記載すること</p>	<p>土曜塾プラスの実施については、学習支援を行うアシスタントティーチャーを配置し、中学生の自主的な学習習慣と基礎学力向上に寄与した。また、まなび教室については、農業体験や昔の遊びなど、日頃触れることのできない体験ができた。</p> <p>さらに、広島派遣の実施については、小・中学生が広島での多くの資料や被爆体験者の話を通して生きることの大切さと平和の尊さについて深く認識することができた。</p> <p>また、学校図書標準達成率については、着実に蔵書整備は進んでいるものの、今後とも目標達成に近づけるよう取り組んでいく。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p>	
<p>本プロジェクトに対する自己評価</p>	<p>関連事業との連携効果</p>	<p>幼稚園、保育所及び小・中学校の施設整備を行うことにより、子どもが安全で安心して学び、過ごすことができる環境を整備することができた。また、国登録有形文化財の旧山田家住宅が公開されることで、町内の子どもたちが本町の歴史や文化に触れる機会が増加した。</p>
	<p>府と市町村等との連携に資する成果</p>	
	<p>住民の自治意識を高める成果</p>	<p>学校運営団体や社会教育団体に対する補助については、学校支援の組織構築や青少年の健全育成に向けた支援により、教育環境の充実につながった。また、子どもにおいても、放課後や学校休業日に開催のまなび教室や、歴史や文化に触れ合うためのふるさと教室により、日頃体験することのできない様々な内容を学習することができた。</p>
	<p>リーディング・モデル成果</p>	<p>久御山学園全体研修会では、本町カリキュラムの研究・検証を行っており、ここに補助を行うことで保幼小中一貫教育を展開することができた。また、少人数学級で学習することで、学力充実はさることながら、生徒指導の面からも効果を上げることができた。</p>
	<p>広域的波及成果</p>	
	<p>行財政改革に資する成果</p>	<p>楽器更新等の教材整備の計画的な執行により、優先順位を明確化させ更新サイクルを確立することができた。</p>
	<p>その他の成果</p>	<p>保幼小中の連携により、子どもの進級時に段差解消を図ることができた。</p>

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。